

秋田米レポート

第28号（令和8年7月）

〔 目 次 〕

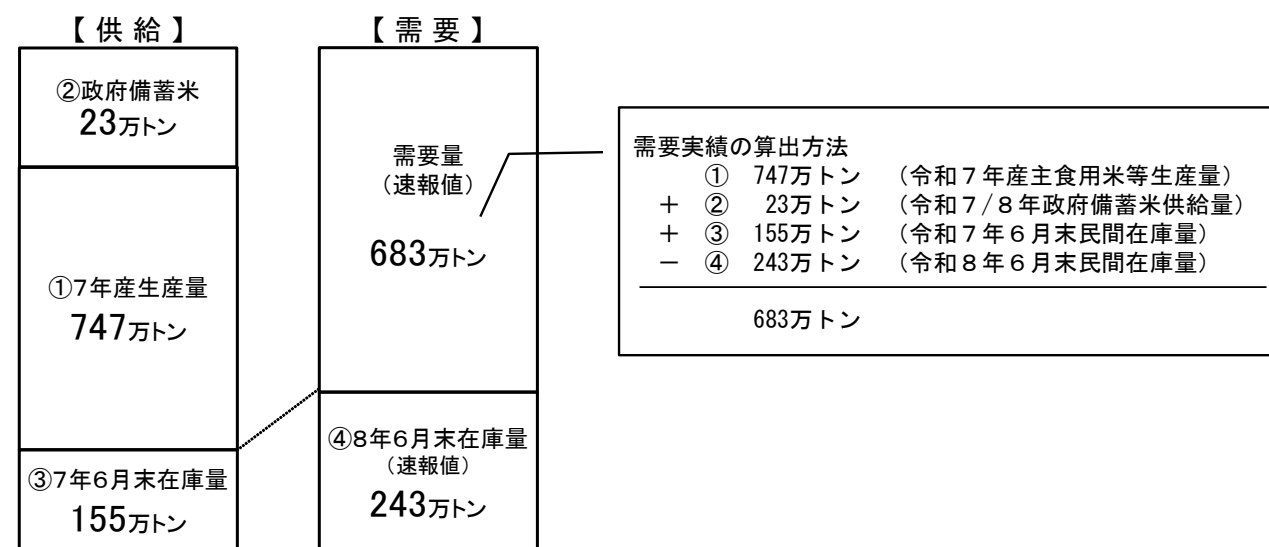
1	需要実績（速報値）	
（1）	全国の令和7/8年の需要実績	1
（2）	県産米の令和7/8年の需要実績	2
2	需給見通し	
（1）	全国の令和8/9年の需給見通し	3
（2）	県産米の令和8/9年の需給見通し	4
3	各種データ	
（1）	県産米と主要銘柄の相対取引価格の推移	6
（2）	県産米と主要銘柄の小売価格（POS）の推移	6
（3）	民間在庫量の推移（秋田県）	7

秋田県農林水産部
水田総合利用課

1 需要実績（速報値）

（1）全国の令和7/8年の需要実績（令和8年7月基本指針より）

- ・ 令和7/8年（令和7年7月1日から令和8年6月30日までの1年間）の全国の需要実績（速報値）は、前年（713万トン）から30万トン減少し、683万トンとなった。
- ・ 令和8年6月末民間在庫量は243万トンと、前年同期から88万トン増加し、適正在庫とされる180～200万トンを大きく超過した。



注1: 主食用米等生産量は、令和7年産水稻の収穫量(主食用)（「作物統計」農林水産省大臣官房統計部）。

注2: 6月末民間在庫量は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫量に水稻を作付けした生産者の在庫量推計値を加えたものである。

注3: 令和7/8年政府備蓄米供給量は、令和8年6月までに供給された政府備蓄米の数量(随意契約による政府備蓄米23万玄米トン)である。

注4: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

令和7/8年の需要量が減少した要因として、

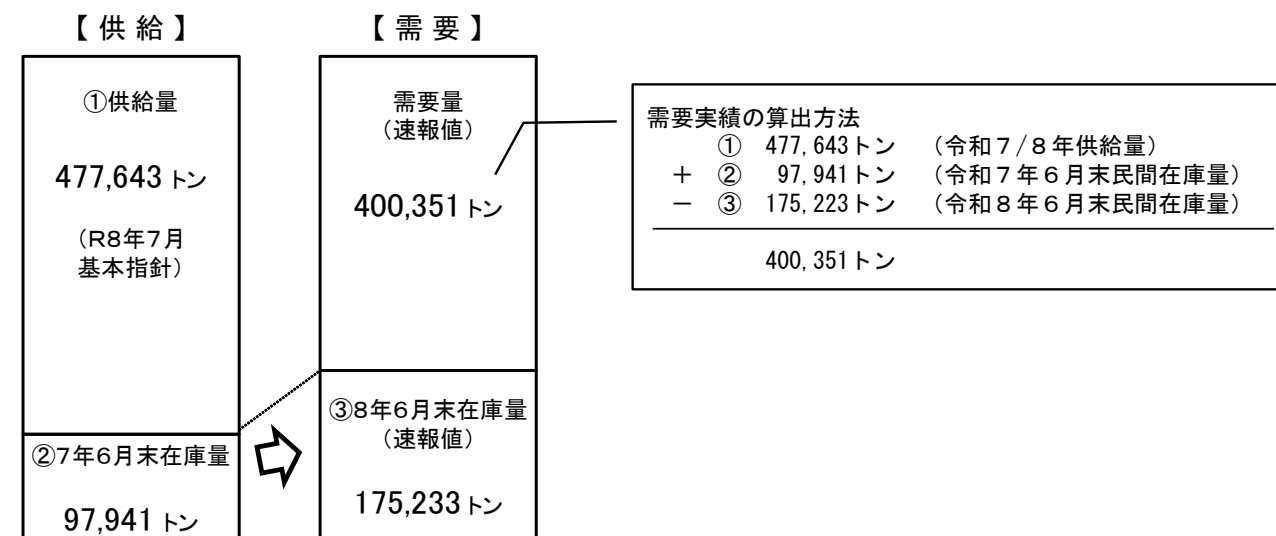
- ① 枠外輸入が増え、国産米の需要が減少したこと
- ② 実需や消費者の手持ち在庫が増え、購買が落ち着いてきたことがあげられています。



需要が減少したことや令和7年産の生産量が多かったことで、令和8年6月末在庫は適正水準よりも40万トン以上多い、243万トンとなりました。

(2) 県産米の令和7/8年の需要実績（令和8年7月基本指針より）

- ・ 令和7/8年の県産米需要量（速報値）は、前年（406,971トン）から約6,600トン減少し、400,351トンとなった。
- ・ 全国の需要量は大幅に減少した一方、県産米需要は小幅な減少にとどまったため、全国の需要量に占める県産米シェアは、前年より0.27ポイント増の6.18%となった。
- ・ 令和8年6月末民間在庫量は、過去最大規模の17.5万トンとなっている。



注1: 供給量は、「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」（令和8年7月）より。なお、政府備蓄米は含まれていない。
 注2: 令和8年6月末在庫には、売り渡した政府備蓄米の在庫量は含まれていない。
 注3: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

直近7カ年の県産米シェアと7中5平均

年産米	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	7中5 平均	R7-R6
全国(トン)	7,143,500	7,040,000	7,015,000	6,911,000	7,049,000	6,887,000	6,476,000	-	-411,000
秋田県(トン)	433,456	443,083	417,616	419,589	412,709	406,971	400,351	-	-6,620
県産米シェア(%)	6.0678	6.2938	5.9532	6.0713	5.8549	5.9093	6.1821	6.0367	0.2728

出典: 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和8年7月）

国が公表した都道府県別の需要量には、政府備蓄米の分が含まれていませんので、令和6年産米と令和7年産米の需要実績を評価するときは注意が必要です。



政府備蓄米として販売された県産米の実績が含まれていないということは、県産米の需要量は、国が公表している以上にありそうですね！！

2 需給見通し

(1) 全国の令和8/9年の需給見通し（令和8年7月基本指針より）

- ・ 作付意向調査（令和8年6月末時点）を踏まえた8年産の生産量は、前年よりも15万トン少ない732万トンの見通し。
- ・ 令和8/9年の需要量（693万～711万トン）は、前年よりも10～28万トン多いと見通されているが、9年6月末の民間在庫量は、過去最大の8年6月末在庫量（243万トン）が影響し、263万～281万トンと推計された。

< 令和7/8年の需給実績 >

【供給】	【需要】
政府備蓄米 23万トン (随意契約分)	需要量 (速報値) 683万トン
7年産生産量 747万トン	8年6月末在庫量 (速報値) 243万トン
7年6月末在庫量 155万トン	

< 令和8/9年の需給見通し >

作付意向調査（令和8年6月末時点）を
踏まえた見通し

【供給】	【需要】
8年産生産量 (見込み) 732万トン (作付意向)	需要量 (推計) 693～711 万トン
8年6月末在庫量 (速報値) 243万トン	9年6月末在庫量 (推計) 263～281 万トン

適正と言われている水準は
180～200万トン

令和9年6月末の在庫は、
更に増えて最大で281万ト
ンか。
適正水準よりも80万トン以
上も増えてしまうね。



令和9年産は、更に需
給が緩みそうだけど、
米価はどうなってしまう
のかな。

(2) 県産米の令和8/9年の需給見通し（県による予想）

- ・ 6月末時点の作付意向から、本県の8年産米の生産量は前年より2.4万トン少ない453,700トンと見込まれている。
- ・ 令和8/9年の需要を直近5か年の平均値とした場合、令和9年6月末在庫は、208,944トンとなり、適正とされる在庫量（10万～12万トン）の2倍程度に達する見込み。

< 令和7/8年の需給実績 >

【供給】	【需要】
7年産供給量 477,643トン (R8年7月 国基本指針)	需要量 (速報値) 400,351トン
7年6月末在庫量 97,941トン	8年6月末在庫量 (速報値) 175,233トン

< 令和8/9年の需給見通し >

【供給】	【需要】
8年産生産量 (見込み) 453,700トン (作付意向面積 × 標準単収)	需要量見通し (推計) 419,989トン (直近5か年の平均)
8年6月末在庫量 (速報値) 175,233トン	9年6月末在庫量 (予測) 208,944トン

適正と言われている水準は
10～12万トン

県産米の令和8年6月在庫が適正水準を5万トン以上も超えているのに、令和9年6月末在庫は8万トンも超える可能性があるのか？！



全国の需給は、今より緩和するのは間違いなさそうだし、県産米についても同じ方向に進みそうだね。この先どうなるのか・・・。

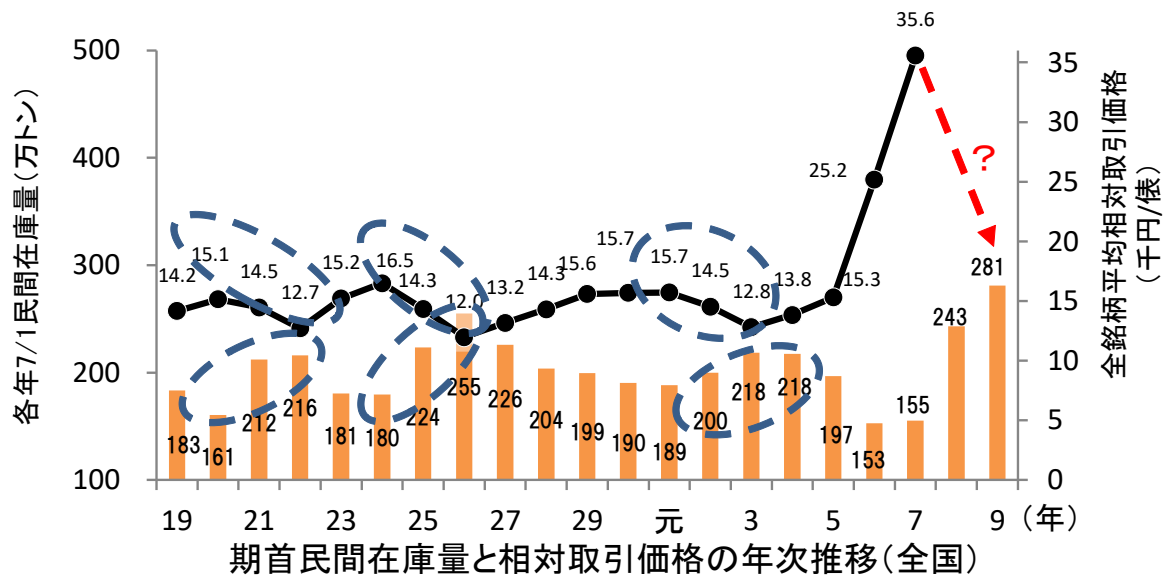


コーヒーブレイク ～マイ倉くんのつぶやき～

これまでの全国の相対取引価格と在庫量の関係から、在庫量が前年より増加した年は、米価が下落するようだね。



マイ倉くん



マイ倉くん

全国の令和8年6月末在庫量は243万トンで、前年から88万トン増えたね。

令和9年6月末在庫量は、更に増加し263万～281万トンと見通されているから、適正とされている水準（180万～200万トン）を最大で81万トンも超過する可能性があるのか！需給の緩和が加速してしまうかも・・・

国は政府備蓄米の買い戻しは、令和8年産米の作柄を含め、今後の需給状況等を見定めた上で、時期・数量を判断するとしているが、計画だけでも早く示して欲しいものだ。

3 各種データ

(1) 県産米と主要銘柄の相対取引価格(※)の推移

※ 出荷業者と卸業者等との間で、数量と価格が決定された主食用の相対取引価格（運賃、包装代、消費税含む1等米価格）を加重平均したもの（玄米60kg当たり）。

相対取引価格(各年産の通年平均と令和8年6月速報値)

単位: 円/玄米60kg、%

	秋田あきたこまち	秋田ひとめぼれ	北海道ななつぼし	新潟コシヒカリ(一般)	全銘柄平均
R5年産	15,317	14,375	15,655	16,927	15,315
R6年産	24,806 (162)	22,285 (155)	27,035 (173)	25,636 (151)	25,179 (164)
R7年産	36,994 (149)	33,838 (152)	35,145 (130)	37,555 (146)	35,573 (141)

※ R5～R6は出回りから翌年10月まで、R7は出回りから令和8年6月までの平均価格。

※ 括弧内数値は前年産との比較

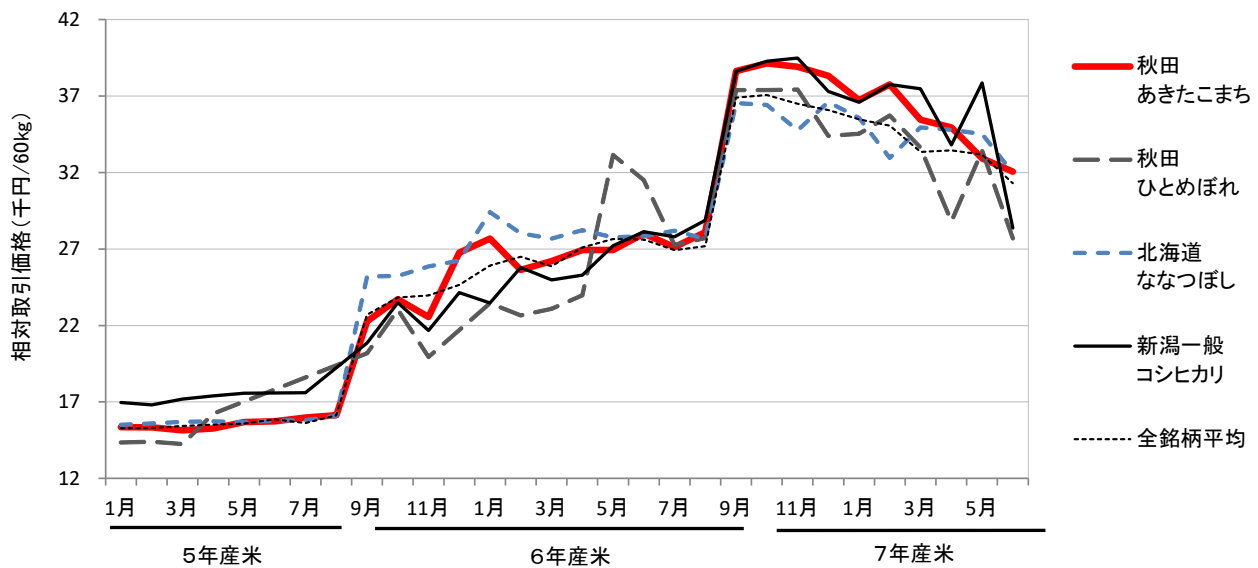


図 県産米と主要銘柄の相対取引価格の推移

(2) 県産米と主要銘柄の小売価格 (POS) (※)の推移

※ 全POS取引平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格。(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成。全国約1,000店舗のスーパー、生協等（ドラッグストアは約400店舗）のデータに基づく。

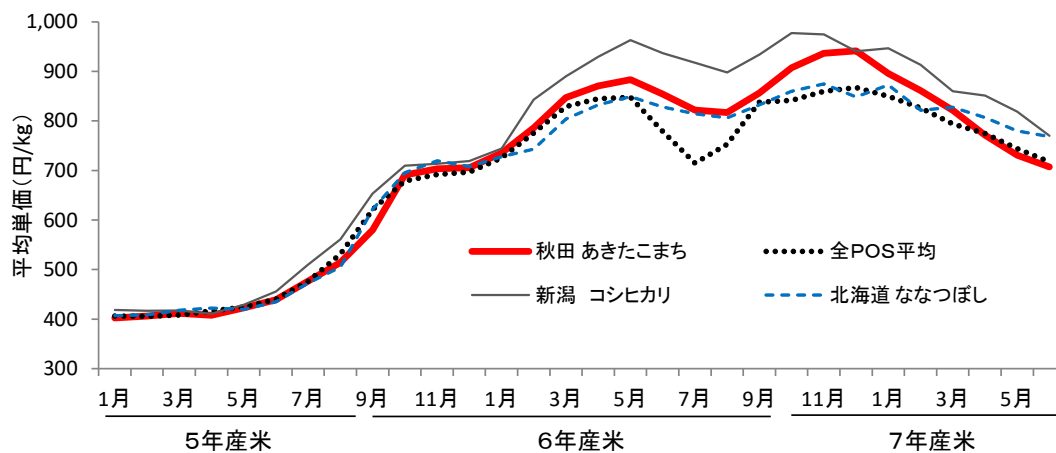


図 POS平均価格の推移

(3) 民間在庫量(※)の推移(秋田県)

- 令和7/8年の出荷+販売段階の在庫は、過去5年平均を上回って推移している。

※ 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)。出荷段階は、全農、県単一農協、県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)。販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)。

【出荷+販売段階】

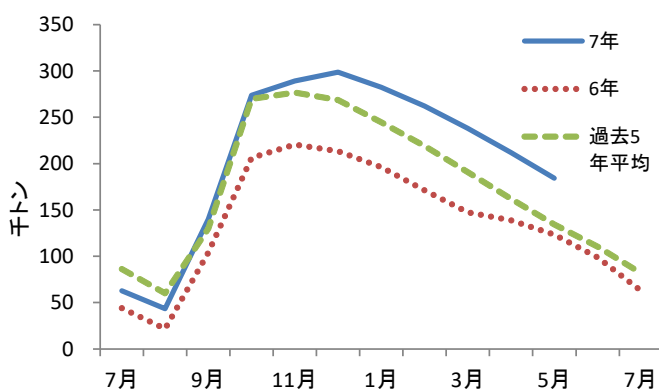


図 県産米民間在庫量の推移(速報)

出荷・販売段階は、民間在庫量の総計になります。数量が大きいいため、変化は現れにくいものの、大きな流れをつかむことができます。

【出荷段階】

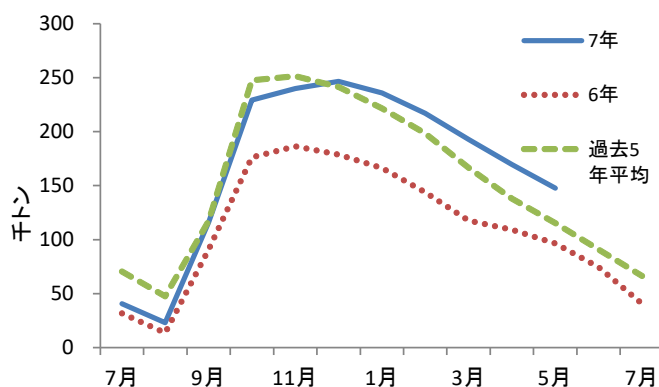


図 県産米出荷段階在庫量の推移(速報)



出荷段階は、集荷業者の在庫量になります。販売段階は、卸業者やその先の在庫量になります。

【販売段階】

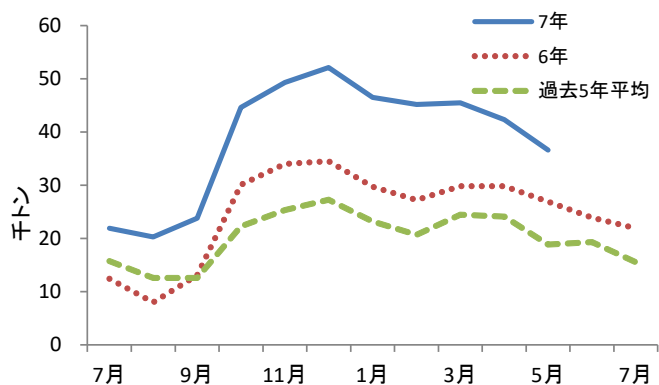


図 県産米販売段階在庫量の推移(速報)